

平成29年度中長期経営プラン2016の進行管理結果について

山武水道では、中長期的な視点に立った新たな計画として、平成28年3月に「山武郡市広域水道企業団中長期経営プラン2016」を策定し、基本理念として掲げた「次世代へつなぐ強靱で安心な水道」の実現を目指して、経営プランの推進に取り組んでいます。

この度、平成29年度の取組について、実施状況を分析して要因や課題を把握する評価を行いました。

今後、この結果に基づいて、必要な改善を行い中長期経営プランの着実な推進に取り組んでまいります。

1 中長期経営プラン2016について

中長期経営プランは、企業団の水道事業全般に関する最上位の基本的かつ総合的な計画として、第3章「現状と課題」を踏まえ、第4章「基本理念と目標」において、「次世代へつなぐ強靱で安心な水道」を事業運営の基本理念として掲げ、この基本理念を実現するための事業展開の方向性を「水道水の安全の確保【安全】」「確実な給水の確保【強靱】」「供給体制の持続性の確保【持続】」という3つの計画目標として具体的に設定しています。

この3つの計画目標を達成するため、第5章「今後の10年間の取組姿勢」において、平成28年度から平成37年度までの10年間で重点的に取り組む施策・取組内容を体系的に整理しました。（別添「計画の体系及び評価結果」参照）

また、体系化とともに、「施策等の指標」「年次計画（活動目標）」により数値目標を設定し、目指すべき目標を明確にしています。

2 進行管理の方法

中長期経営プランは、PDCAマネジメントサイクルにより進行管理を行います。

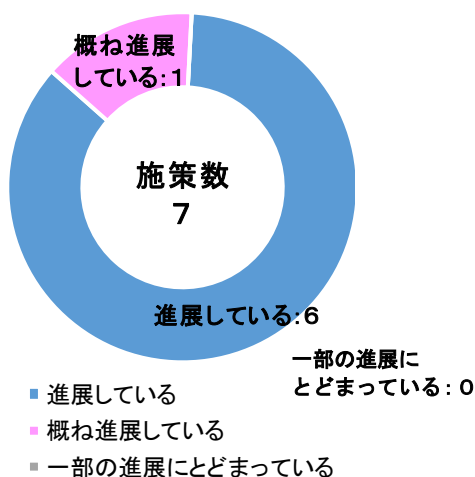
評価により明らかになった成果と課題を、中長期経営プランの着実な推進に活用します。

3 平成29年度に実施した施策の評価

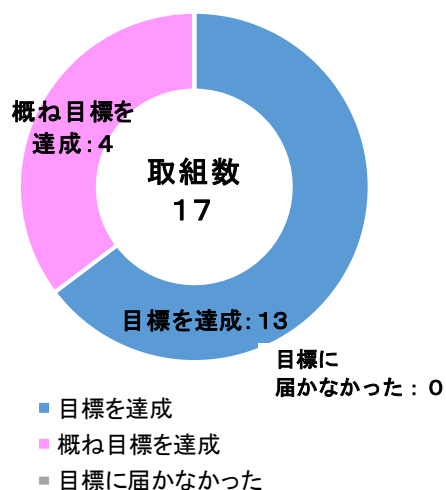
中長期経営プランに掲げた3つの計画目標を達成するための各施策について、主な取組の実施状況により「進展している」「概ね進展している」「一部の進展にとどまっている」の3つの区分に整理し、その進捗状況を評価しました。

- 計画目標に掲げた7つの施策のすべてについて、「進展している」又は「概ね進展している」と評価しました。
- 施策を達成する具体的な手段である17の主な取組内容のすべてについて、「目標を達成」、「概ね目標を達成」と評価しました。

施策の評価



取組の達成状況



4 平成29年度の実施状況

平成29年度に実施した各施策における主な取組内容は以下のとおりです。

計画目標1 水道水の安全の確保【安全】

【水質管理の強化】

- 水質管理体制を定めた水質検査計画について、最新情報を反映させた計画に更新しました。また、当該計画に基づく水質検査を行い、その結果をホームページで公表しています。
- 水質異常時等の緊急時に迅速な対応が図れるよう関係機関との情報伝達訓練を実施しました。
- 水源から給水栓に至る総合的な水質管理を求める水安全計画を策定しました。
- ホームページや広報紙を活用し、貯水槽水道の適正管理について周知するとともに、給水申込の事前相談時において直結給水方式を推奨しました。
- 口径50mm以上の給水管の取扱いについては、企業団の給水装置工事施行基準において使用材料が定められていることから、耐震管である配水用ポリエチレン管（EF接合）、ダクタイル鋳鉄管（耐震継手）を用いて施工するよう、指定給水装置工事事業者に対し申請時から完成までの間、管材料の選定から施工管理について指導や検査の強化に取り組みました。

計画目標 2 確実な給水の確保【強靱】

【水道施設の計画的更新と維持管理】

- 災害時においても安定した給水を確保するため、地震動レベル2の耐震性能を有する松尾配水場3号配水池の詳細設計を実施しました。
- 計画的に老朽化した設備の更新を行いました。（大網配水場監視制御設備更新工事・東金配水場遠方監視制御設備更新工事）
- 大網配水場電気・ポンプ室棟の耐震補強工事を実施し、官庁施設耐震診断基準値を確保しました。
- 基幹管路（口径 350 mm以上の配水管）について、今後想定される大規模地震等の被害を最小限に抑えるため「基幹管路配水管耐震化計画」に基づき耐震化工事及びダウンサイジング（延長 1,930m）を実施しました。
- 災害時に避難所となる学校や主要病院等の重要給水施設への配水管について、震災による被害を最小限に抑えるため「重要給水施設配水管耐震化計画」に基づき耐震化工事（延長 1,434m）を実施しました。
- 配水管の定期的な保守点検及び管路パトロール等を実施するとともに配水管が老朽化している地域について漏水調査（大網白里市：延長 480km、山武市：延長 146km、横芝光町：延長 20km）を実施しました。

【総合的な危機管理】

- 漏水発生等による緊急時の復旧体制については、管内を5地区に分け24時間体制で待機し漏水等の発生時においては、迅速な修理対応を実施しました。
- 災害時において、応急給水・応急復旧作業等を迅速かつ確実に実施するため、「災害対策実施計画」及び「活動マニュアル」を平成29年度の組織体制に合わせて改正するとともに、それらに基づく実践訓練として、情報伝達訓練及び総合的な災害対策訓練を実施しました。
- 各種災害協定に基づく合同防災訓練等に参加し、災害時における関係団体との連携強化を図りました。
- 渇水時における諸活動が的確に行えるよう、渇水対策本部設置要綱等による対応を確認しました。

計画目標 3 供給体制の持続性の確保【持続】

【お客様サービスの充実】

- 窓口業務に関係する委託業者と定期的にミーティングを行い、お客様サービスの向上について指導・監督を実施しました。
- 新たな料金収納形態の検討を行うため、お客様センターを通じて、お客様からの要望状況の把握を行いました。また、他事業体の状況調査等を行い、取扱金融機関の拡大等についての検討を行いました。
- 水道事業全般について、ホームページや広報紙を活用した情報発信を行いました。

○参加型広報活動として小学4年生を対象とした水道出前講座を実施しました。

【経営の健全化及び効率化】

- 国立社会保障人口問題研究所の将来推計を活用し、人口動態を踏まえ最新の実績値により分析を行うことで現状を把握し将来における水需要を検証しました。
- 資産管理については、最新の基礎データを整理しアセットマネジメントを実施することで管理水準の向上を図りました。
- 工事計画や窓口業務等を迅速に行えるよう管路情報や給水装置工事に関する各システムについて、現地調査等に基づきデータを更新しました。
- 熟練職員の大量退職を控えていたことから、業務継続に支障がないよう次年度以降の事務分掌及び組織体制を見直しました。
- 九十九里地域末端給水事業体の統合・広域化の検討として、中長期的な課題を分析した上で、統合・広域化の効果を検証し、基本方針等を取り纏め「基本構想（案）」を策定しました。
- 有識者や水道利用者からなる水道事業運営委員会において、中長期経営プランにおける進捗管理等、事業運営に対する意見や助言を頂きました。

【活力ある人材・組織づくり】

- 専門的知識の習得及び資質向上のため、各種研修会へ職員を派遣しました。
- 千葉県水道局に職員を研修派遣し、資質の向上を図りました。
- 熟練職員からの技術の継承に努めるとともに、次世代を担う職員に水道事業に必要な資格取得を奨励しました。

【環境に配慮した事業運営の推進】

- 大網配水場の配水ポンプ用インバータ装置を高効率化して省エネルギー化を進めました。
- 発注工事全てに浅層埋設工法を適用し、掘削土砂の削減及び工期短縮と併せ、建設機械から発生するCO₂を削減しました。
- 庁舎事務局における省エネルギー対策として、デマンド監視装置により使用電力量を管理調整しながら、休憩時間等の消灯、ノー残業デー及びクールビズの実施により、照明及び冷暖房設備の節電に取り組み環境負荷の低減を図りました。

5 進行管理に関する評価

中長期経営プランの施策を推進するために企業団内に設置した「中長期経営プラン推進委員会」において、進行管理に関する内部評価を実施しています。

また、内部評価の客観性を確保するため「山武郡市広域水道企業団水道事業運営委員会（知識経験を有する委員等）」に諮問し、評価結果を取り纏めています。

山武郡市広域水道企業団中長期経営プラン2016
平成29年度 計画の体系及び評価結果

計画目標 3	施策 7	取組内容 17	達成状況	施策の評価	
1 水道水の安全の確保【安全】	(1) 水質管理の強化	① 水質管理の強化	a	A	
		② 直結給水方式への推進	a		
		③ 給水装置に対する安全性の確保	b		
2 確実な給水の確保【強靱】	(2) 水道施設の計画的更新と維持管理	① 効率的な水運用のための水道施設の整備	a	A	
		② 配水施設の計画的更新	a		
		③ 管路施設の計画的更新	b		
		④ 管路の維持管理及び漏水防止対策	b		
	(3) 総合的な危機管理	① 災害対策計画と活動マニュアルの運用管理	a	A	
		② 漏水事故及び災害時における復旧体制の強化及び関係者間の連携	a		
	3 供給体制の持続性の確保【持続】	(4) お客様サービスの充実	① お客様サービスの向上	b	B
		(5) 経営の健全化及び効率化	① 将来需要の動向に即した水道料金制度の検討	a	A
② 経営基盤の強化			a		
③ 組織体制の強化			a		
④ 統合・広域化の検討			a		
⑤ 運営委員会の有効活用			a		
(6) 活力ある人材・組織づくり		① 人材育成と技術の継承	a	A	
(7) 環境に配慮した事業運営の推進		① 省エネルギーと環境保全対策	a	A	

達成状況	施策の評価
a 目標を達成	A 進展している
b 概ね目標を達成	B 概ね進展している
c 目標に届かなかった	C 一部の進展にとどまっている